

【学年】 4年

【教科・単元】 算数「はしたの大きさの表し方」

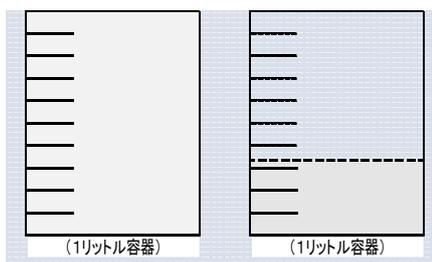
【実践内容】

〈学習のめあて〉

基準量を何等分かした大きさに着目し、はしたの部分の大きさを表すことができる。

・実践概要

- ① とある容器の中の水のかさがどれくらいなのかを量るため、1リットルカップに移しかえる。
- ② 移しかえた水（1リットルと少し）の水のかさをどのように表すか考える。
- ③ カップと同じかさが表記されているワークシートをもとに、考える。（どんな方法でもよいということ子どもたちに伝える）
- ④ どのように表せばよいかを話し合う。



（知的好奇心について）

既習の内容で子どもたちは、マス目にあっているかさは読むことができる。また、10等分したうちの1つが0,1であるということも学習した。今回のかさは、3デシリットルと4デシリットルの間を示しており、非常に子どもたちを困惑させた。

‘どんな方法でも’ということから、非常に興味深く取り組んでいた。自分なりの方法で、かさを表そうとする子どもが多く見られた。

【子どもたちの様子・反省】

- ・子どもたちは、あらゆる方法ではしたの部分を表そうとした。  
活動例：（定規で目盛りの長さをはかる、自分で目盛りを更に細かく描く、切り取る、色をぬる、計算する、単位を変えて考える等）
- ・活動を通した学習により、興味深く取り組むことができ、一人ひとりの思考を働かせることができたと思う。
- ・発表や話し合いが進むにつれ、はしたを表せない派、表せる派に分かれて意見を交換することができて、面白かった。
- ・はしたの部分が1リットルカップを3等分したうちの1つであることを検証した際の子どもたちの反応が、とても良かった。
- ・子どもたちから、はしたの部分に目を向けさせることにはならなかった。
- ・話し合いが進むにつれ、内容が深いものとなったが、ついてこれる子とついてこれない子の差がはっきりと分かれてしまった。その子たちの支援をもっと考えていきたい。